現代の
家庭教育支援者に
求められるものを
考える

RE　Learning　　秦野　玲子

＊注　この資料は研修当日使用したスライドをHP掲載用に
写真やイラストを削除するなど一部改変しています。

家庭教育・・・　文科省はこんなふうに説明しています

家庭教育は保護者がこどもに行う教育で　すべての教育の出発点

家族のふれ合いを通して以下のようなことを身につける重要な役割

- 基本的な生活習慣や生活能力
- 人に対する信頼感
- 豊かな情操
- 他人に対する思いやり
- 基本的倫理観
- 自尊心や自立心
- 社会的なマナー

参考：　文部科学省　子供達の未来を育む家庭教育
https://katei.mext.go.jp/contents1/

行政が家庭での営みを支援する根拠
法律では・・・

教育基本法　第十条　　（抜粋）

２　国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない

社会教育法　第5条　市町村の教育委員会の事務　（抜粋）

７　家庭教育に関する学習の機会を提供するための講座の開設及び集会の開催並びに家庭教育に関する情報の提供並びにこれらの奨励に関すること

＊条文の全文は各自でご確認ください。

つまり・・・

保護者がこどもたちに、

基本的な生活習慣や生活能力や

人に対する信頼感、豊かな情操を身につけさせてあげて

自尊心や基本的な倫理観を育て

社会の中で人と上手に関われるように家庭の中で教えていくこと

それを、保護者の自主性を尊重しながら*も

保護者に対する学習機会を設けたり情報提供をして

支援する必要が行政にはあります。

＊個々の家庭における具体的な教育の内容や方法は、各家庭（保護者）が決めるもの

なぜ、家庭に任せておかないの？

- 共働き家庭やひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変化
- 家庭生活に余裕のない家庭が増えている
- 保護者が子育ての悩みや不安を抱えたまま、相談する相手がいなくて地域で孤立しがちである

→　家庭の教育力の低下が指摘されている

それにより おきている問題は…

- 児童虐待など子どもたちの健やかな育ちをめぐるおとなの課題
- 子どもが、十分な睡眠、バランスの取れた食事、適度な運動といった、育ちを支える基本的な生活習慣が身につけられず、人との関わり方の基礎が育てられていない

低下した、といわれる「家庭の教育力」

親が教育できなくなったわけではない

以前は、子どもの育ちに関わる人が
親だけではなかった

たくさんの友だちや、きょうだいで育ち合う
子ども同士の相互教育もあった

親や家庭をとりまく状況が以前とは変ってきている

支援対象の中心として想定される「母親」の状況

「今のお母さんは、子育ても満足にできない。」

→　満足にできなくて当たり前。

その理由は･･･

- 子どもが少ないので、子ども同士で育ちあうチャンスが少ない
- 親世代もすでに少子化で身近にお手本がいないうえ、子どもを世話するのは自分の子が初めて
- 情報が多すぎて情報にふりまわされてしまう
- 女性の生き方は変化し多様化しているのに
  母親になったとたんに「母親一色」であることを自他により暗黙に強要される
- 社会の価値観が多様化し、親だけの価値観では対応しきれなくなっている
- 「ほかの子、ほかの親」と常に比較、競争し、不安にかられている

なのに・・・

子どもの育ち方が母親の人間としての評価のように勘違いされている

「頑張ればできるのに結果が出ないのは努力が足りないから」

「問題行動を起こす子に育てているのは親の努力不足」

というメッセージが有形・無形で世の中にあふれている

だけど…

子育ては努力と比例して結果が出るものではない

→　母親としての自分に自信が持てず自己肯定感が下がる

それでも必死で「ガンバッテ」いる

まずは母親自身の自己肯定感があがるような支援をしたいですね！

支援の4つの種類

- 直接支援
  - 手伝う、代わる
- 情報支援
  - どこで支援がうけられるか
    支援に関する情報提供
    情報を得る力をつける
- 共感支援
  - 話しを聞く　　ピアサポートの場作り
- 援助への期待
  - なんとかしてもらえるひとがいる
    場所があるという期待感や希望

実際の運営で大事にしたいこと

- おとなにはおとなの学びの支援方法がある
- 子どもと一緒に学ぶ時間と子どもと離れて学ぶ時間を組み合わせる

  ＊一時預かりを　対面講座にはぜひ！
- 学びの場に行く時間も作れない、疲れて出かける意欲が出せない

  子どもの急な発熱などで予約をキャンセルせざるを得ない人が多い

  →　対面とオンライン、オンデマンドを組み合わせた学習機会を
- 福祉部門との連携により「届ける学習機会」を

「おとなの学習者の特質」といわれていることと　学習支援で大切にしたいこと

①自己中心的、自己決定的（自分で決めたい）

→　「自分で決める」場面を作る

②蓄積された経験を学習資源にする（気づき、分かり直し、学び合い）

→　互いの経験をヒントに

③即効的な学習を求める（すぐに役立つことを学びたい）

→　今、困っていることの答えをひとつでも！

④自分に対する過小評価とプライド、不安が混在する

→　プライドを傷つけない

これまでの「家庭教育学級」とは違う　運営の工夫も考えてみましょう

例）

・同じテーマ、同じ内容のものを複数の日時で開催する。

・メッセのように大きめの会場で、好きなテーマの所で学べる催し

・子育て広場の一角にファシリテーターがいて
　母親同士のコミュニケーションができるコーナーを設ける

・オンデマンドでも双方向になるように

　　・・・　Googleクラスルームなどを利用して質問でき
　　あまり間をおかず回答が書き込まれるなど

・子ども食堂など福祉分野とのタイアップ

etc.

まとめにかえて

現代の家庭教育支援者に求められるもの

- 相互受容と共感の場づくり
- 小さな関わりの際には心が温かくなる言葉がけができる
- 家庭をとりまく様々なひとたちに今の親ならではの

  辛さや大変さを伝え、理解を深める機会作り